

精神科病院の看護職等による 行動制限最小化の取組実践

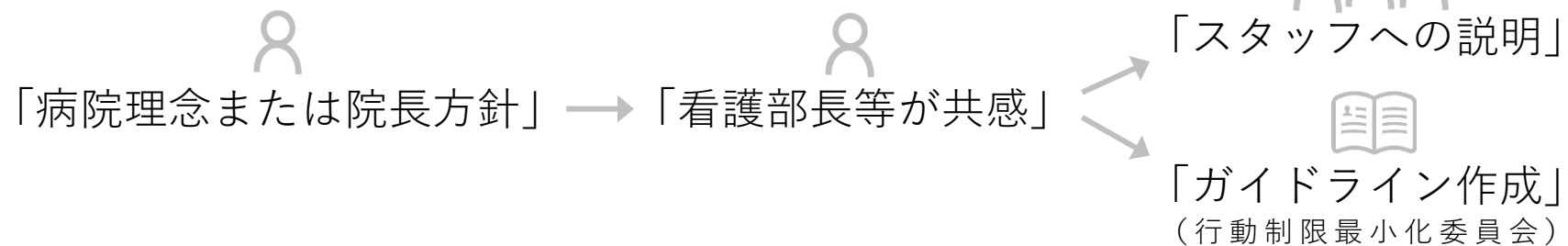
－ 職能団体および研究者の立場より －

一般社団法人日本精神科看護協会

会長 吉川 隆博

1 行動制限最小化への取組契機（事例）

① 病院理念または院長方針の具現化



② 他施設の取組みへの共感



- ・ 精神科病院での取組
- ・ 介護保険施設での取組

③ データ活用



- ・ 自院のデータ化
- ・ 他施設データとの比較評価

2 身体的拘束への具体的な取組実践（例）


1 日本精神科看護協会の方針

2021年 第2回精神科看護CONGRESS

精神科看護職がめざす方向性 → 「身体的拘束に頼らない看護の実践」をめざす

2 身体的拘束要因の解消に向けた取組

回避するための取組

 例「① 身体損傷のリスク回避：ルート抜去」

- ・ 医療的処置の実施（点滴等）
 - 看護職員の下時間帯での実施
 - 看護職員による付き添い
- ・ 患者の苦痛や違和感等を最小にする固定方法の検討





例「② 転倒時のリスク低減」

- ・ 低床ベッド、転倒時の衝撃低減マット等の利用



例「③ 生活リズム・睡眠状態の改善」

- ・ 日中活動の計画（多職種での取組）、薬物調整などの実施



例「④ 安心感を与えるケア」

- ・ ケアの工夫：ユマニチュード技法の活用

3

身体的拘束の代替法を用いた取組

回避するための取組




例「環境調整」

- ・ 各種センサーの活用（離床・体動センサー等）→ 危険の早期発見・対応
- ・ ウェアラブル端末の所持、申し送り時間の短縮 → 観察モニタリング体制強化
- ・ 病室、ベッド配置の工夫等 → 駆けつけ時間の短縮・確保
- ・ 見守り担当スタッフの配置 → 人による対応



④ 身体的拘束の解除に向けた取組

 例「患者個別のアセスメントと対策の検討」

- ・ 患者個々のリスクアセスメントとリスク対策の検討
- ・ 一人ずつ解除して、成功体験を積み重ねる → 安心感



3 隔離への具体的な取組実践（例）

1 隔離要因の解消に向けた取組 回避するための取組

例「予防的ケア」

- ・病状悪化のアセスメントと予防的ケアの実践 *トラウマインフォームドケアの応用
- ・患者個々に応じた手段の選択と活用
- ・セルフコントロール法への応用

2 隔離の最小化（早期解除）に向けた取組

例「患者参画型の取組」 *パートナーシップの考え方


- ・解除に向けた具体的な行動目標の共有 → 判断基準の可視化
- ・患者と職員による評価 → 患者－職員間におけるズレの解消




4 行動制限最小化を進めるチームづくり（例）


① スタッフの意識改革に向けた取組（例）

 倫理カンファレンス → 患者中心に考える風土づくり


 行動制限を行わないメリットの共有


 個別性の尊重を重視した業務改革

② 病棟看護職員のサポート体制（例）

 心理的安全性の確保 → 率直な意見表出、付いていこうと思える関係

 多職種によるサポート → 多職種カンファレンス、患者対応など


 行動制限最小化委員会によるサポート → 病棟に出向き一緒に考える

 CVPPPトレーナーの病棟配置 → 患者対応（ディエスカレーション）




5 行動制限最小化を促進・定着させる取組（例）


① マネジメント（例）

 トップマネジメント → 方針の提示、取組責任を担う

 ミドルマネジメント → 現状把握、現場指導、スタッフの相談対応


② リスクへの対応（例）

 医療安全委員会との連携 → リスクを恐れずチャレンジできる体制づくり

 事故発生時の対応 → スタッフが責められない体制づくり（安心感）

 患者家族への対応方針等の説明

③ その他の取組（例）

 行動制限最小化に資する情報・知識・スキルの獲得

 身体的拘束の実施率・実施日数等の公開 → クリニカルインディケーター（臨床指標）